

## 令和7年度 感染に関する研修会 アンケート集計&回答

- 今日はとても貴重なお話を聞いて勉強になりました。  
これまで、外側からの感染対策ばかりやりながら、はたしてこれでいいのだろうかと思っていたので、いろんなモヤモヤがすっきりした感じがしました。  
質問にも的確にお答えいただき、先生の引き出しの大きさや多さに驚きました。  
視点が広がり、日々の自分の生活、自分の家庭や職場、仕事にも大切な事ばかりだったので、今日参加できて良かったです。ありがとうございました。  
こどもふくし協議会の皆さま、このような機会をつくっていただきありがとうございました。
- 嘔吐する子、下痢をする子は多くて（未就学児）、感染は広がらないように…など、対策はとっていましたが、腸を考え免疫を育てるなど、今後の支援の視点に取り入れたいと思います。  
一緒に働くスタッフが笑顔で元気であることが、とても大切だと思いました。伝達して共有したいと思います。
- 今日はありがとうございました。腸は大事とはよく聞く事でしたが「なぜ」がよくわかりました。また、便秘に対して「出ているから大丈夫」ではないことがわかり、支援時にもよく見ていかなければと思いました。  
保護者様への伝え方もよくわかり、今後の支援時には気を付けて観察し、伝えられるようにしていきます。
- 腸の働きが悪いと免疫力が低下するというのは何となく思っていただけで、ストレスになり悪くなっていく理由などがわかって良かったです。  
前職で介護の仕事をして20年ほどしておりましたが、腹圧をかけられない方の手伝いや便を出すというところに目を向けていたように思います。  
今回の研修で腸と脳のつながりや身体を強くする事も理解でき、今後の仕事にも活かしていきたいと思います。
- 感染対策という外側からの予防対策を考えがちでしたが、今日の講義で内側からの免疫ケアを知ることができ、今まで当たらなかった視点から考える事ができました。  
重身や医ケアなど多いため入浴介助等、まずは触れる、温めるなどの視点から少しでも安心できる環境、腸の整えにつながっていけたらと思っています。  
早速、今日から様々な場面で実践していきたいです。
- 腸とストレスの関係をこれまで考えた事がなく、とてもいい機会となった。  
自分自身の体調により利用児への影響もあるかもしれないと気づくこともあり、今後の対応声掛け等にも変化をつけていきたいと思う。職員間にも共有し、施設全体で体の中からのケアについて考えていきたい。  
何事もかたよりすぎず“適度に”が大事だとも思った。

- 感染症対策と聞くと、手洗いや消毒等を考えていたが、今回のお話を聞いて内側のケアの重要性を学べた。

また、子どもを守るためには、もっと環境を整えることが事業所で必要だと実感しました。

私自身もよくお腹の調子が悪くなるので、今できることを考えて、元気に支援ができる身体づくりを心掛けたいと思います。

- 子どもに関わる者として、子を持つ親としても、とてもすてきなお話でした。

忙しさの中で“ムリ”“できない”ではなく、いつもやっていることの視点を変えることから始めてみようと思いました。

- 緊張すると胃が痛くなるイメージは以前からありましたが、腸にもこんなに関わりがある事を知り、驚きました。

今までは、しっかり感染症対策を“させなければ”という気持ちが強くて、児童に寄り添うことができていなかったように思います。

4月に今回の研修を他の職員に伝達する予定なので伝えていきたいです。

- 便秘気味の子どもが何人も通所されていて、今まで水分を摂らせようとばかり考えていましたが、内部からのことを考えて支援する方法があるんだと、とても勉強になりました。

今日学んだことを、事業所のスタッフ、そして利用児や保護者の方々に伝えて、心地よく生活できる日が増えるといいなと思いました。

サンファイバー、調べてみます。

- 子どもたちが安心できる環境でありたいと思いました。

ストレスをためがちなので今からでも出来ることをしていきたいと思います。

嘔吐、下痢になった時、私が焦ってしまう事や、その後の対応が出来ていなかったのも、子どもの事を考え動きたいと思います。

- 内側からの感染対策について、面白い視点だと思った。

免疫力を上げる＝腸内環境を整える→感染予防につながる。

感染対策＝アルコール、次亜塩素酸のイメージ。消毒（つけない、増やさない、やっつける）

（身内に細菌扱う人、自身も昔食品製造に携わっていたため）

- 腸と免疫と心の安定が、こうも密接に関わり、感染症対策になるとは思っていなかった。

子どもの不調を表面的にしか見えていない自分がいました。

言葉が出ない子が、どうしてゴロゴロ寝転がり機嫌悪く過ごしている日があるんだろう？と思っていたことが、研修を受け、もしかしたらこれだ！！と感じました。

偏食がある、排泄の自立が出来ていない…腸活をすれば何か変わるかも！！と思います。まずは安心感。スキンシップをしながらお腹の運動につながるよう支援しようと思います。

・腸が子どものケアに重要な事が学べて良かったです。子どもに寄り添う腸ケア。無理させない安心ケア。腸に目を向けていきたいと思います。  
支援とは別の見方ができて、これから取り入れていきたいと思います。

・腸は大切という事はわかってはいたけれど、今回の研修でどう大切なのか理解が深まりました。子どもたちの腸や便のことを、特に排便が自立している子に関して深く気にするという視点が無かったので、今後は、その部分も意識していけたら一步深い支援になるのではないかと思います。また、ストレスにならないことが一番ということを入れて、食の環境作りもしていけたらと思います。

・腸活というと気合を入れてやらなければいけないと思っていましたが、お話を聞いて、すぐにでも出来る事、無理しなくていい事がわかって、とても良い時間になりました！  
利用児さんへの支援も直で便のこと、食事のことを言わなくても、心に寄り添って呼吸を合わせることから始めて、一緒に楽しく体を動かすことなどが腸の状態を整えることにつながると理解できました。 午後の支援から早速行っていきたいです。

・親睦会の際、大変お世話になりました。その際は、自分の子供のこともいろいろと相談させて頂き、私自身も大変勉強になりました。  
参加された保護者の方々も勉強しながら、たくさんお話をすることでリフレッシュにもなられたと思います。  
私自身、SNSを見ながら腸活をしていますが、情報があふれ何が本当によいのか迷子のような状態です（笑）  
今回改めて先生の話聞く事ができ、自分でできることから腸活を始めていこうと思います。  
（にじいろキッズ）

・お年寄りでも子供でも自分で摘便する方がよくいました。今もいます。気持ち悪くスッキリしないからだと思うのですが、自分で納得いくのであればさせてもいいのでしょうか？

#### ⇒【1. 摘便について】

摘便は本来、医療的判断のもと慎重に行う処置です。

ご本人が「すっきりする」と感じていても、直腸粘膜の損傷や出血、感染のリスクを伴う場合があります。  
大切なのは、

- ・なぜ残便感が強いのか
- ・便の硬さや排便リズムはどうか
- ・水分や姿勢、腹圧の状態はどうか

といった背景を見ていくことです。

「してよいかどうか」ではなく、

なぜその状態になっているのかを見る視点を持つことが重要だと考えます。

・野菜を食べない子どもも多いです。食べる子と野菜食べない子では排便の有無、量が全く違います。サプリなど利用してスムーズな排便が可能であれば、取り入れていきたいと思います。

⇒【2. 野菜を食べない子どもへのサプリ導入について】

野菜を食べない＝すぐにサプリ、という考え方ではなく、

- ・排便状況
- ・腹部の張り
- ・水分摂取量
- ・生活リズム

などをまず確認することが大切です。

サプリメントは補助的に役立つこともあります。まずは腸が安心できる生活環境を整えることが土台になります。

導入を検討する場合は、医療職と相談しながら慎重に進めることをおすすめいたします。

・私自身、腸活に取り組んでいますが、今日の研修会は、すごく面白かったです。

いろんな視点で学ぶことができ、とても勉強になりました。

1つ質問です。

側弯変形の強いお子さまに関わっています。リハビリでは、脊柱のねじれを整えて過緊張の筋を緩めなど行っています。腸に触れるときの注意点、直腸周辺を触れていいかなどお聞きしたいです。

⇒【3. 側弯のあるお子さまへの触れ方について】

側弯が強い場合、腹部臓器の位置や圧のかかり方が通常と異なることがあります。

そのため、強い腹部圧迫は避け、呼吸に合わせたやさしいタッチを基本にしてください。

直腸そのものを直接刺激するのではなく、仙骨周囲への穏やかな刺激を通して副交感神経（骨盤神経）に働きかける方法があります。

例えば、

- ・仙骨部を温める
- ・呼吸に合わせて仙骨にそっと手を添える
- ・仙骨部をやさしくトントンとリズムよく刺激する
- ・踵（かかと）への穏やかな刺激を通して仙骨部へ神経的にアプローチする

といった、間接的な関わりでも有益な場合があります。

いずれも強い刺激ではなく、

「安心できる感覚をつくること」を目的とします。

便秘対応＝便を出すこと、ではなく、

神経の緊張をゆるめることが結果的に排便につながる、という視点も大切です。

医療的ケアが必要なケースでは、主治医やリハビリ担当者と連携しながら慎重に対応されることが望ましいと考えます。